

地域福祉フォーラム

**ささやかでも 公益的活動は
施設から地域への恩返し**

社会福祉法人東京緑新会 多摩療護園

園長 平井 寛 2019・3・10



**1972年旧療護施設制度開始と同時に開設された
多摩療護園（所在地＊東京都日野市）**

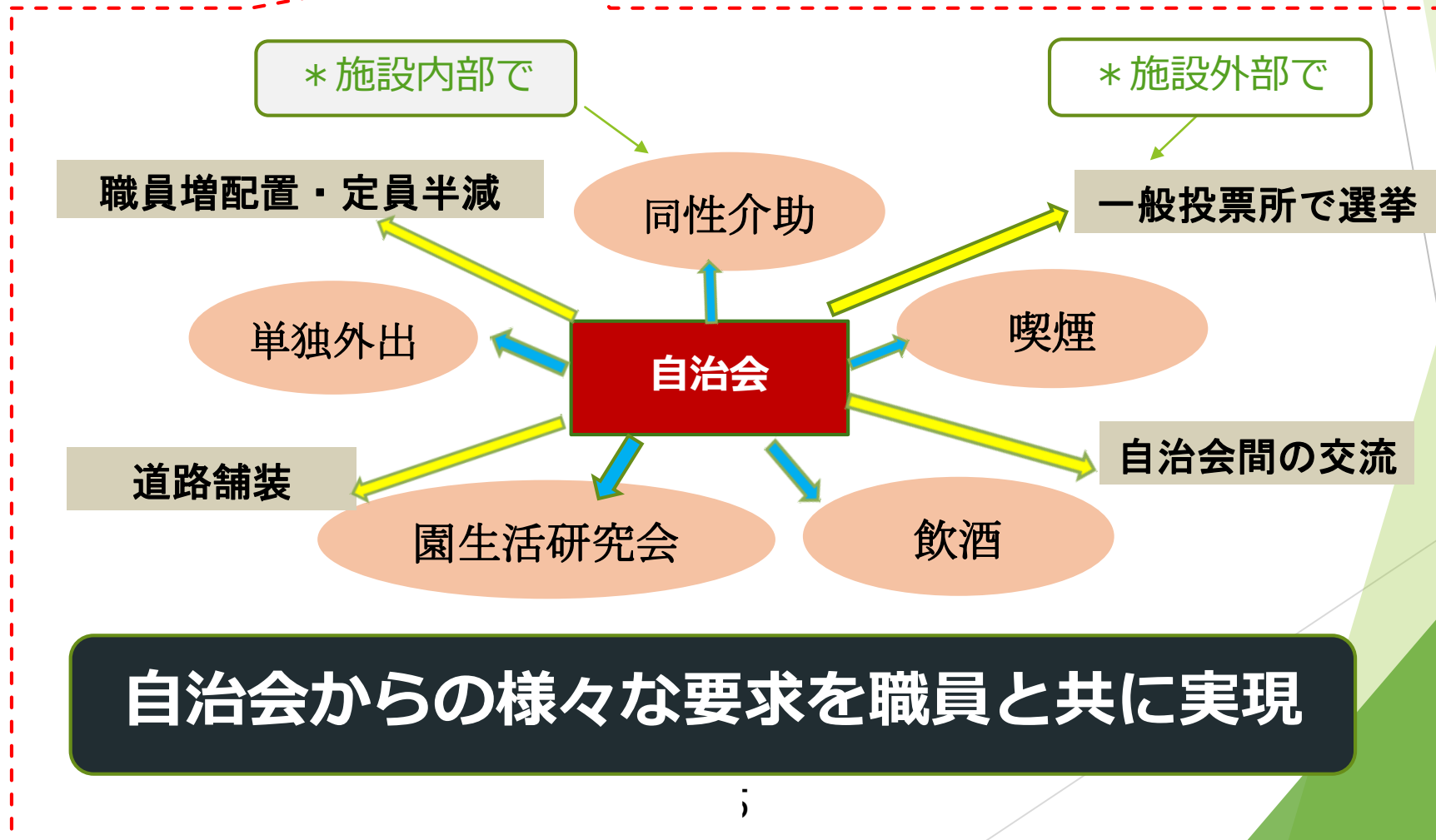
1 多摩療護園という施設について

- 1972年4月 1 日都立民営方式で開設
 - 全国で一番最初に設置された療護施設
- 施設年名称変更↘ 1999年移転改築↘ 2009年民間移譲
 - 多摩更生園⇒多摩療護園 全室個室
- 現在の定員
 - 施設入所支援 5 8、通所生活介護 2 2、短期入所 3
- 入所者の障害状況：身体に加え、知的、精神、その両方に障害のある方の合計は 8 8 %
- 通所利用者登録約 5 0 人：半数が重症心身障害者

2 利用者と関わっていただいた地域の方々

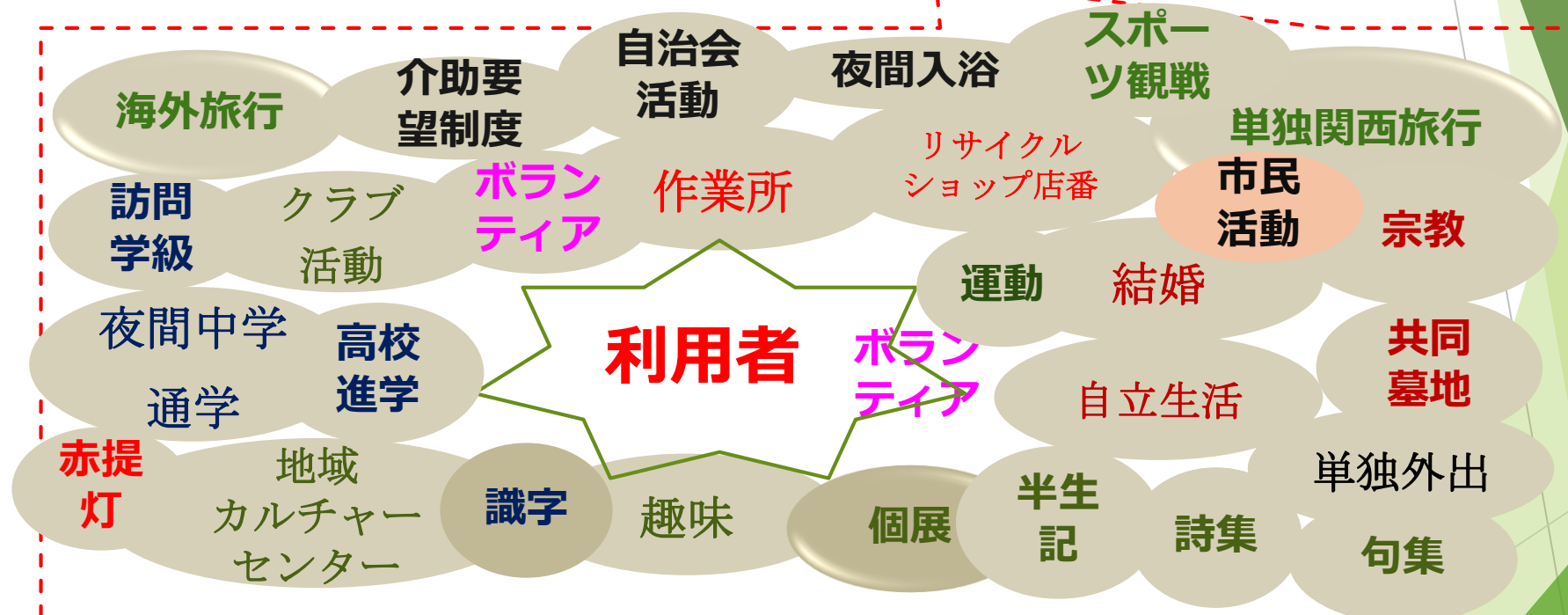
- 1972年開設翌年には園生（居住者）自治会設立
- 施設から社会参加に取り組んだ重度障害者
- 職員も「ノーマライゼーション理念」で、どんなに障害が重くても一般市民と同等の生活を目標に頑張って支援した
- これに呼応していただいた大勢の市民ボランティアの方々が存在した

1970年代 創造の時代



自治会からの様々な要求を職員と共に実現

利用者自身が行った様々な事柄 当たり前の生活を目指して 自己実現の80,90年代



様々な個人の希望が実現された

ケアコミュニティ（本人中心ネットワーク）が満載

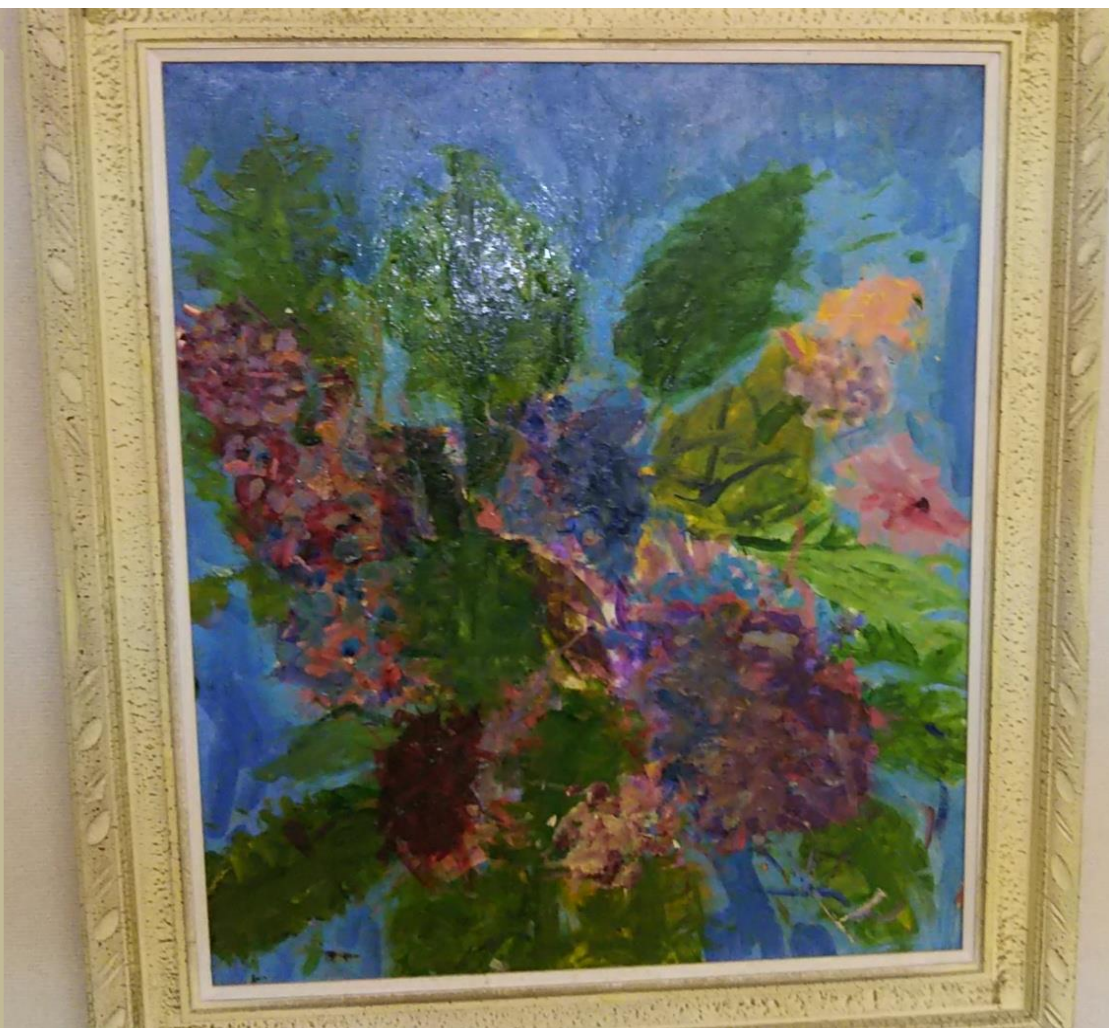
3 地域からの応援には頭が下がる思い

- **夜間中学**への利用者通学支援、**高校夜間部**進学後の通学支援に延べ2000人の**市民ボランティア**が活動（職員も有志が半分近く応援）⇒そして**地域居住**後も**学生ボランティア**が支援
- 施設外部での**絵画教室**、**組みひも教室**、**料理教室**、**リサイクルショップ**の店番など
- これまで18人の**地域自立生活者**への様々な支援
- **多種多様なボランティア活動**は施設内外に及び
支えられてきた

4 豊かでおおらかであった地域社会

脳性まひのBさん、日本橋のゆかた染物業の娘として生まれ

82歳を目前に亡くなったが、多摩療護園の「ユトリロ」と称賛されてきた



・施設の近くにあった絵画教室で、教室の皆さんの協力があり職員の介助なしに描き続けた

・手が使えなくなっても、絵の具のついた筆を口にくわえさせてもらい、油絵を何点も描き、個展まで開くことが出来た

5 地域の皆さんにお返しをしなければ

- 以前の事だが・・・地域支援は取り組みにくい状況
- ▶ 東京都から「都立施設は都内全域から入所利用される方を支援するのが基本。特定の自治体に便宜を図ってはならない」等と言われていた
- まずは、身近なところから・・・自立退所者への①無償入浴サービス
自立生活者が増えてきたため②外部事業者ヘルパーへの研修対応支援
地域住民対象の③介護教室など
- ▶ その後、地元社協のふれあい事業で行った④一人暮らし高齢者への配食支援（当園が材料費のみで弁当を準備し、民生委員の方々が直接居室に配る）
- ▶ 自立退所された方やショートステイ近隣利用者に⑤リラクゼーション・機能維持運動などを行う木曜日午後の運動室開放

6 これまでの地域支援は変遷して終了 もしくは発展的解消が多い

- ①無償入浴サービス ⇒ 元利用者が亡くなったため終了
- ②ヘルパー研修支援 ⇒ 制度変更や受講者が集まらない等で終了
- ③独居高齢者配食サービス ⇒ 3年間の試行。現在は高齢分野事業で定着
- ④地域住民対象の介護教室 ⇒ 日常業務量増加等から実施できていない
- ⑤各種相談対応 ⇒ 相談支援事業に転換
- ⑥自立退所等の運動室開放 ⇒ 16年間継続も、地域移行者の減少、元利用者の出身地帰還や訪問リハビリ制度との兼ね合い等で曲がり角に来ている

■ 新たな地域支援策への模索を目指してー

7 この20,30年間を見ると 豊かな地域社会はしだいに縮退してきた

- ▶ バブル崩壊、グローバル化、非正規労働の拡大、リーマンショック、少子超高齢化、子供の貧困化と時代の特徴を表す言葉を追っていくごとに社会が疲弊していく様子が窺える ⇒ 私たちに何ができるのか？
- ▶ 当園ボランティア（実習・研修生含む）の方々はピークの1/4（年間延べ4000人から1000人に）
- ▶ 重症化により外部の人には利用者とのコミュニケーションが難しくなっていることも一つの要因
- ▶ しかし、これまで地域の方々に助けていただいたレベルに比べ、当園が地域に対して出来たことははるかに小さい

8 利用者の重度・高齢・病弱化は施設にとって苦しい状況

- ▶ **職員は言う「先輩たちの時代は良かったのかもしれないが、今は余裕が全くない。地域福祉の重要性は分かるが、利用者の生活の質は落とせない」**
- ▶ **今年度の報酬改定は重度化に対応→大幅増収に**
- ▶ **→しかし利用者の入院や死亡退園増加→空床利用を促進も→欠員日数は過去最大となり→増収分の大半は消えた**
- ▶ **この傾向は利用待機者の重度化状況に起因。今後拡大することがあっても縮小する材料はない**

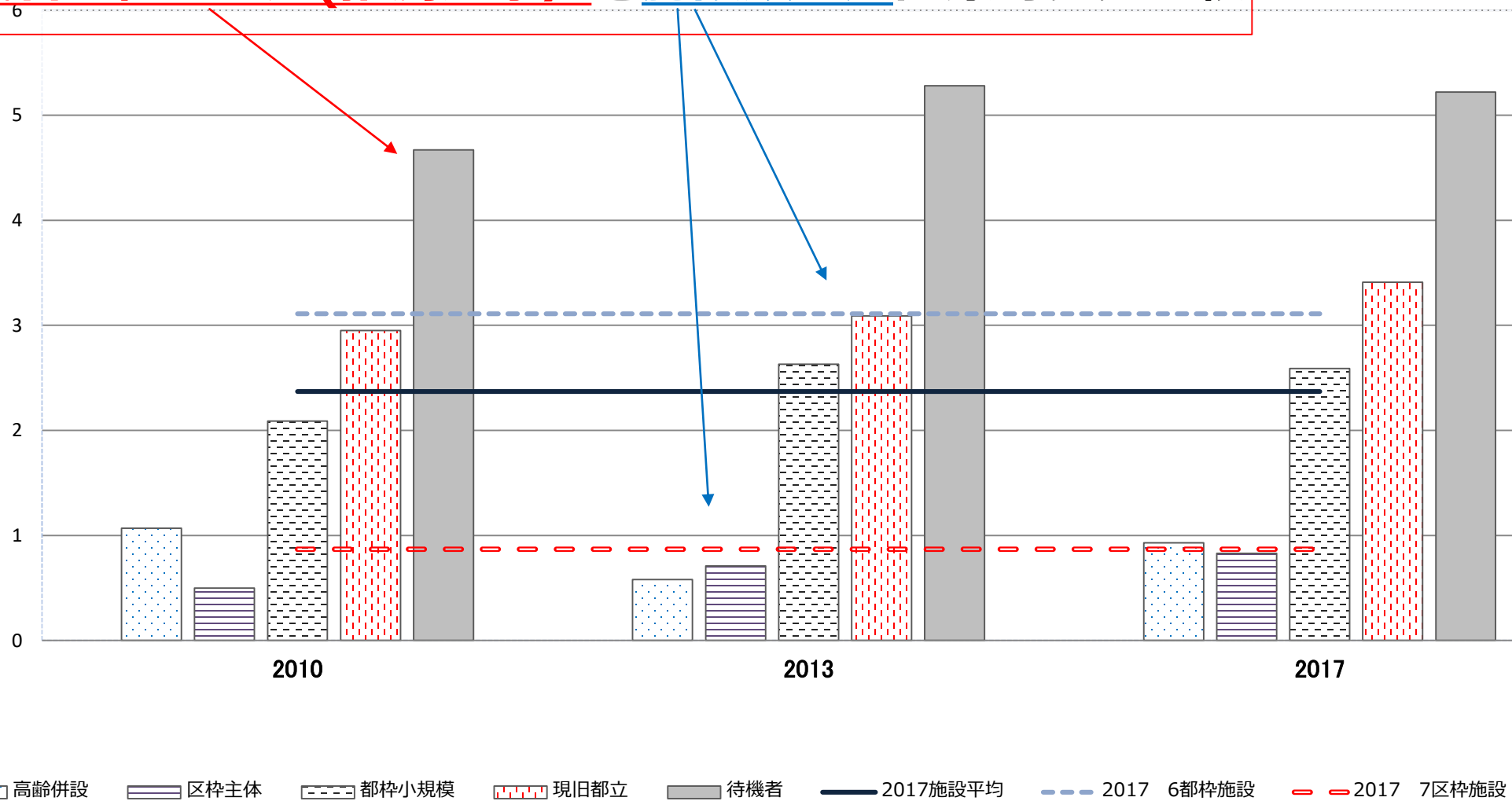
9 医療的ケア量と重度化状況は連動

2010～2017 3回調査

医療的ケアの数値化による実態比較

医療的ケアの数量的比較ができないかという問題意識から、医療的ケアを多く実施する3施設に依頼し、『気管切開からのたんの吸引等日常管理を10ポイント』とする基準により、看護師、生活支援職員及びその両者が協働で行う手技を『技術、頻度、リスク』の3要件から比較検討、それぞれの項目を平均点数で算出した。手技は、「気管切開からの吸引10点、人工呼吸器管理9点、気切を除く鼻腔等吸引6点（深部の場合10点）、胃ろう他経管栄養6点、人工肛門パウチ・膀胱ろう等管理5点、酸素6.5点、膀胱留置バルーンカテーテル管理5.5点、導尿全介助8点」の以上主な行為に限定し、合計点数を利用者数で割ることによって、各施設1人当たりの医療的ケア量が分かり、比較可能という試みである。

待機者上位60人(推薦対象) と施設類型別医療的ケア比較

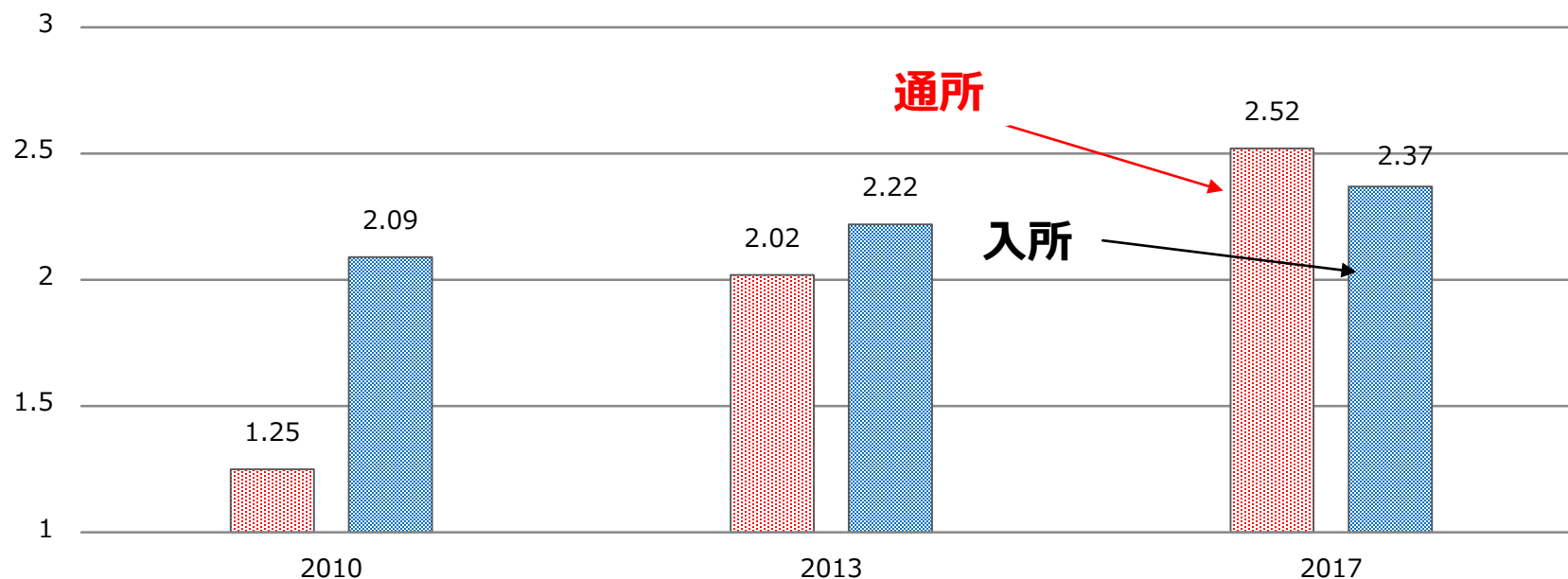


* 上部点線は都枠のみ6施設、下部点線は区枠主体7施設平均

地域在宅の困難事態が現れている

入所と通所の医療的ケア量の動き **重いはずの入所を越えた通所**

都内療護施設調査結果：利用者1人当たり医療的ケア指数の推移



主な医療的ケア項目に対して、気管切開からの吸引10点を基準に比較点数表を作成し、入所と通所の医療的ケア量を7年間で3回求めたものです。各年4月1日実利用者人員が対象（回答率95%）
東京都身体障害者施設協議会（調査時点15施設、現在17施設）

10 地域連携・エンパワメント 委員会の設置

- 地域公益活動は、限られた職員資源を利用者から奪ってしまう側面もある（利害対立） → だが、一方で地域には利用者が憧れる社会的生活がある → → （でも最重度障害者の 地域移行は国の掛け声と裏腹にハードルが上昇） → だから地域の方々との 出会いが必要・・・
本当は、職員意識の中に施設と地域の壁が復活したのでは？・・・
このままではセルフアドボカシーや本人主体の拠り所である利用者自治会も崩壊しかねない → 「福祉に携わる職員は地域社会の現実を見ながら、施設の置かれた課題をも見据え『自己完結しない思考』を持つべき」・・・・・・・・・・・・・・・・
- ◎ そこで、利用者と職員が地域の様々な人たちとの接点を大切にする「地域連携・エンパワメント委員会」を設置した・・・・・・・・

1 1 力量に応じた緩やかな活動を目指す 日野市社会福祉法人ネットワーク

- ▶ 推進協(地域ネットワーク推進委員会)東社協担当者のご協力に感謝
- ▶ 準備会を経て2017年2月16日「日野市法人ネットワーク」設立
- ▶ 日野社協(事務局)がしっかりフォロー
- ▶ まず、障害者中心の「みんなといっしょの運動会」参加660人開催
- ▶ 既存の住民活動を共催等のスタイルで強化することを主軸に
- ▶ 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練やシンポジウム開催など防災・減災への取り組みに力を注ぎ、買い物高齢者移送支援も始まった
- ▶ 「社会福祉法人活用ガイドブック」を作成、市内を4区域に分けた法人・事業所の中堅・若手職員意見交換会開催、市主催地域懇談会参加
- ▶ 今後はフードドライブ、地域食堂などを検討



日野市法人ネットワーク高幡不動地区 中堅・若手職員意見交換会で紹介される当園職員

12 地道な地域支援の取り組みを無理せず 楽しく 着実に 行っていく

- ▶ 制度の狭間におかれた課題は沢山あるが、「取り組みたいことを考えて取り組みそうなことから始める」ことが大切と思われる
- ▶ 「日野市社会福祉法人活用ガイドブック」に載っている当園支援提供の目玉は、機械入浴設備やテイルト・リクライニング式車いすの貸し出しで、さっそくアパート生活を始めた当園以外の元施設利用者が、アパートの風呂が狭くて入れないため利用されている
- ▶ 東日本大震災の職員派遣時を思い出し、できるだけリレー式で継続できることはないかと夢は膨らんでいる
- ◎ とにかく地域ネットワークを少しずつ広げて行こう。そして利用者に

情報を提供し共に取り組もう・・・・・・・・・・ **おわり**



地域ネットワークを共に広げていこう！